

授業概要

社会には男性／女性といった男女二分法に基づく「性差の枠組み」が存在する。しかもそれは、「目に見えるかたち」として存在しているだけでなく、非常に「見えにくいかたち」として存在している。授業では、学校生活や恋愛などの身近な話題から、労働のありかたや社会政策といったマクロな問題まで幅広くとりあげ、そこに性差をめぐる思い込みや、固定的な性別役割が埋め込まれていないか、ひとつひとつ点検していく。

授業計画

第1回	「ジェンダー」って何？～ジェンダー概念について学ぶ
第2回	「ジェンダー学」はなぜ、誕生したの？～「女性学」「男性学」の観点から
第3回	そもそも「性差」って何だろう？① 性と性差の多様性について学ぶ
第4回	そもそも「性差」って何だろう？② セクシュアル・マイノリティについて学ぶ
第5回	教育とジェンダー① 「かくれたカリキュラム」の観点から
第6回	教育とジェンダー② 教育現場における実践
第7回	メディアとジェンダー① 子ども番組におけるジェンダー・バイアス
第8回	メディアとジェンダー② コマーシャルのメディア分析
第9回	中間のまとめとワーク
第10回	労働とジェンダー① 「女性労働」をめぐる問題
第11回	労働とジェンダー② 「男性労働」をめぐる問題
第12回	ケアとジェンダー① 「マタニティ・ハラスメント」とは何か
第13回	ケアとジェンダー② 「男性とケア役割」についての課題
第14回	恋愛とジェンダー① 「デートDV」について考える
第15回	恋愛とジェンダー② 晩婚化、未婚化社会について、考える
第16回	定期試験

到達目標

目には見えにくい「性差の枠組み」を見抜く力（＝ジェンダーの視点）を獲得することが、まずは目標となる。そのうえで、なぜ、そのような「枠組み」が社会に存在しているのか、それが、人々の生き方にどのような影響を与えているのか、自分で考察できるような力を養うことが到達目標である。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。

遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り、認めない。

予習復習

「ジェンダー学」は単に知識として学ぶものではなく、つねに、現実の社会事象と関連づけながら、自らが「問い」を発し、それについて考えていく態度が必要となる。よって、常日頃から、新聞を読む、報道番組を見る、などの態度が求められる。それ自体が、予習・復習となることを理解して授業に参加してもらいたい。

評価方法

定期試験試験（80％）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20％）で判断する。

テキスト

『女性学・男性学～ジェンダー論入門【改訂版】』伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子（2011年、有斐閣）